

広瀬 寛人

(ふらの未来の会)

保育行政

問 保育所と幼稚園の課題と解決策は。

答 市内4つの幼稚園の定員は525名に対して403名。出生数予測で平成33年度には126名と予想され、市では3歳から5歳は幼稚園、0歳から2歳を保育所・託児所を基本として認可保育園定員も201名から120名程度として共存共栄を図る。子ども・子育て支援法に基づいた幼児教育や保育のニーズ調査を平成25年度に行う。

広報・広聴施策

問 ホームページの問題点とソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の活用は。

答 情報が更新されていないものもあり迅速性に問題有りとして認識しており各課に責任者を配置し精査する。自治体SNSについては、道庁がツイッターの試行、上川管内でも6市町村が既

にSNSを立ち上げており今後、行政として活用や運営についてのガイドライン設定など調査研究をしたい。

新・旧緑町児童館

問 新緑町児童センターのメニューや質の向上と旧児童館の方向性は。

答 児童館から児童センターになることで遊びを通して体力指導をメニューに導入し、開設後も学校側や運営委員会と協議をして質の向上に努める。午前中の活用も幼児クラブ等の設立要望があれば利用推進を考える。旧児童館は平成25年度に取り壊し更地にして児童公園として整備も含め活用方法を検討する。



旧緑町児童館

渋谷 正文

(ふらの未来の会)

墓地の管理・運営

問 誰もが参拝しやすい墓地とする環境整備が必要。市民の墓地に対する意識、要望の確に把握し、計画的、効率的な運営を図ることが必要ではないか。

答 これまでも周辺道路や橋の整備など利用しやすい環境づくりを進めており、墓地の無縁墓、墓地移転、永代供養等への対応及び現在の使用状況を踏まえ、適切に管理・運営することで区画不足に対応可能と考える。墓地整備基本計画及び検討委員会の設置は考えていない。

農業の担い手対策

問 農業担い手対策として、子育て支援という視点が必要と考える。現在、アグリパートナー支援を継続して実施し、効果をj得ているが、長期的な視点に立った次なる対策が必要では。

答 本市農業が地域経済を支える基幹産業として持続的に発展



富良野墓地の案内表示

していくため、農民生産や地域活動を支える担い手の育成・確保は喫緊の課題であり、就農促進を図る取り組みやシステムの整備などを急ぐ必要がある。

今後、農民生産や地域活動を支える意欲ある人づくりを進めるため、新規就農者への支援のほか、経営感覚に優れた経営体の育成、女性や高齢者の活躍できる環境づくりを推進するとともに、多様な担い手が主役となり富良野農業が活性化する仕組みづくりを次期農業計画の策定に合わせ、検討を深めたい。

「その他の質問」

◇職務と責任に応じた市職員の給与

◇通勤手当算定基準の見直し